



ニューズレター

SDM NEWS



経営・財務戦略論の学外活動でアニメ産業を企業見学 同社ギャラリーでの集合写真

1

2012年 月号

行事予定

2012年2月17日(金) 18:30 ~ 20:00
システムデザイン・マネジメント
研究科公開講座
「自分の本を出したい人のための
出版講座」

講演者: 中吉 智子 (なかぎり ともこ)
編集者/プロデューサー/出版エージェント
オフィスカレン代表
@日吉キャンパス協生館3階C3N14教室

要事前登録 無料

<http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2011/12/20-091515.html>

2012年2月17日(金)

第16回テレイメージング技術研究会

主催: 日本バーチャルリアリティ学会
テレイメージング技術研究委員会
共催: SDM研究所 ほか
<http://www.n3vr.org/tts/>

研究科委員長兼研究所長からのメッセージ

SDM飛躍の年

明けましておめでとうございます。本年も、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

昨年は、日本における大震災、電力危機から、世界の金融危機、通貨安競争、争乱、格差拡大まで、世界中のあらゆるシステムが大規模・複雑化し、相互に関連しあい、容易には全体最適の問題解決策を見出し得ないことを痛感させられた年でした。個人的には、尊敬するイノベータ、スティーブ・ジョブズ氏を失ったことに大きなショックを受けた年でもありました。まさに、あらゆる事象をシステムとして捉え、イノベータティブなシステムをデザインしていく、SDMの必要性が高まっていると言えるでしょう。このため、今年のSDMは、これまで以上にコンセプトを明確に打ち出し、多様な教員、学生、研究員の連携のもと、世の中のニーズに即した国際的研究成果と人材育成成果を世に問うていきたいと思っています。

これまでのSDM NEWSでは研究科委員長が巻頭言を述べていましたが、今年は趣向を変え、12名の専任教員が月替わりで巻頭言に登場し、それぞれのSDMにかける思いを語る場にしたいと思います。また、それに先駆け、1月号では、12名の専任教員の抱負を掲載いたします。多様性を生かし、社会に貢献するSDMにご期待ください。



SDM研究科委員長・SDM研究所長 前野隆司

SDM専任教員 「2012年の抱負」

- 教員と学生が一致団結しSDMの新しさをさらに世に知らしめる年に！ (前野 隆司)
- 夢のある未来を描けるような社会になることを目指した研究を行う (小木 哲朗)
- マルチングポットSDMで、半学半教の精神で、更にチャレンジ！ (神武 直彦)
- 学生が社会で自立するために必要な最低限の知恵を伝えてゆきたい、あわせてEVやPHVの普及に尽力したい。 (佐々木 正一)
- よりメタに考え、より広い解空間を楽しむSDM的方法論で実績をあげる！ (白坂 成功)
- 震災の影響で萎縮気味な世の中を明るくする面白い研究を行い、国内外に発信していきたい (高野 研一)
- ポスト3・11の日本を先導する推進エンジンはSDMでありたい (手嶋 龍一)
- 学生の夢を励まし、共に描いたビジョンに突き進み、SDMの発展に寄与したい (当麻 哲哉)
- 国際連携担当として、従来の欧米だけでなくアジアとの連携を強めたい (中野 冠)
- 分野を超え システムとして 考える モデルベースの 有り難きかな (西村 秀和)
- 辰の今年、教育、研究、社会活動で昇り龍となるように頑張ります (春山 真一郎)
- 竜頭蛇尾に終わらず、初志貫徹忘れず、進取果敢に行動し、通曉暢達になりたい。 (ヒジノ ケン・ビクター・レオナード)

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201201/201201_index.html

通算38号 2012年1月発行



最新のニュース

TOPIC 1 北京大学における留学フェアにSDMが参加



慶應義塾大学のブース

2011年12月6日に開催された北京大学主催の「留学フェア」に、提携大学のひとつとして慶應義塾大学が招待され、SDM研究科およびメディアデザイン研究科の教職員合計4名が参加した。SDMからはディック・グリーン特任教

授がSDMを紹介し、学生からの問い合わせに応じた。

慶應義塾大学のプレゼンテーションセッションには、次世代のリーダーをめざす意欲的な北京大学の学生が多数参加しており、世界の大学で教えられているシステム思考のツールには日本発のツールも多数あり、SDMでは実際に企業でそのツールを開発してきた教員の授業を受けられるとの説明は、学生に印象深く受け止められたようであった。

中国では、学部卒業後に留学することが奨励されており、留学先としては指導教員の出身大学や、共同研究者の所属する大学を選ぶこと

が多いようである。また、学費の負担への関心も高く、奨学金の有無も重要な選択基準である。SDMでも、教員や本国で就職した修了生の活躍を幅広くアピールしていくことが優秀な留学生の獲得にも効果的との印象を受けた。



グリーン特任教員の発表

TOPIC 2 経営・財務戦略論の学外活動でアニメ産業を企業見学

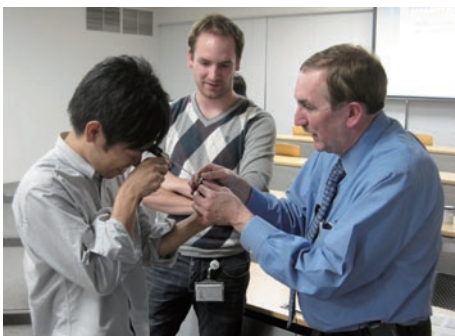
SDM研究科の「経営・財務戦略論」の学外活動として、東映アニメーション株式会社の企業見学が2011年12月1日に実施された。同社は1956年の創立以来、日本のソフトパワー発揮の代表的産業であるアニメのトップ企業のひとつとして注目を集めてきた。同社の顧問でもある、吉田篤生特別招聘教授に引率された同科目の受講生およびSDM有志の教員・学生20

名弱は、東京都内にある同社の本社を訪問。日本のアニメ産業の歴史と現状について詳しい事前ブリーフィングを受けたのち、アニメ制作の現場を工程順につぶさに視察した。視察後の質疑応答セッションでは、システムズ・アプローチやマネジメントの観点から1時間を超える熱心な聞き取りを参加者たちは行った。



事前ブリーフィングに臨む参加者たち

TOPIC 3 ダンカン・ムーア教授による「アントレプレナーシップ」集中講義開催



ムーア教授の開発した工業用内視鏡に興味をよせる学生たち

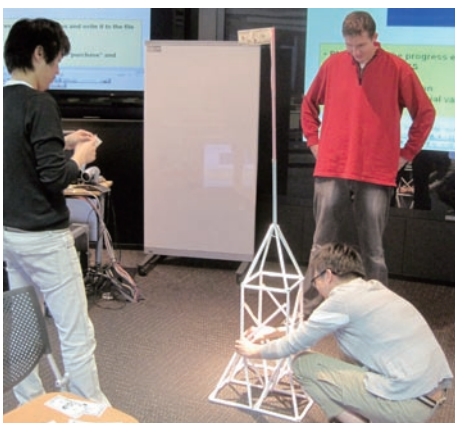
2011年11月30日と12月5日の2回、アントレプレナーシップの集中講義が行われた。講師のダンカン・ムーア教授は、米国・ロチェスター大学アントレプレナーシップセンター副学長で、クリントン政権の際にはホワイトハウス科学技術政策局の次長を務めたこともある人物である。また、教授は、自分で研究開発した屈折率分布型プラスチックを応用し、工業用内視鏡ポアスコープの製作販売のベンチャー企業を立ち上げている。

集中講義では、ムーア教授が自ら経験したベ

ンチャー企業経営での体験談を含めて、多くの事例を挙げながら、技術経営における起業家精神について、知的財産の取り扱いから、財務やマーケティング戦略、投資家への売り込み方まで、あらゆる角度からの講義をされた。参加した学生たちは、次々と語られる事例に耳を傾けながら、興味深く講義に集中した。

またムーア教授は、来日中に開催された12月3日のSDM研究科説明会に参加し、SDMにおけるアントレプレナーシップの位置づけを熱意を持って語られた。

TOPIC 4 プロジェクトマネジメントでミニプロジェクト実施



ペーパータワーを制作する学生たち

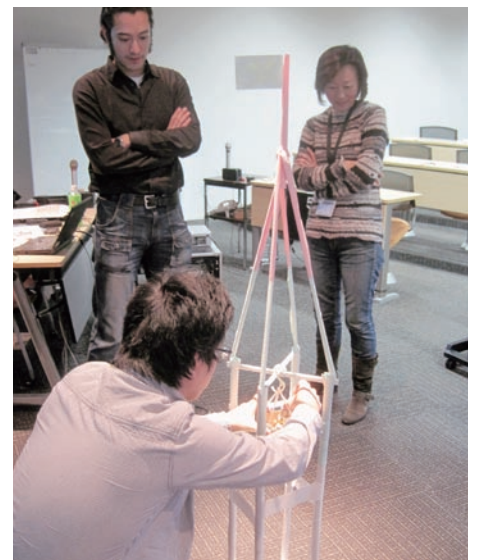
2011年12月5日の「プロジェクトマネジメント(英語講義)」では、これまでの講義で学習したツール類を活用しながら、実際のプロジェクトに応用するワークショップ「ミニプロジェクト」

が開催された。

毎年テーマを変えて挑戦しているこのミニプロジェクトだが、今年のテーマは「ペーパータワー」。2009年度と同じテーマであるが、高さを競った一昨年に對し、今年は、決められた高さ、強度、材料などの顧客要求事項をどれだけ満足できたかを競う、より現実のプロジェクト感覚を学べるように工夫が加えられた。

学生たちは、日本人を中心とする「Japan Team」と、留学生を中心とする「World Team」に分かれて、プロジェクトの成功を熱い戦いで競い合った。

終了後に行われた「Lessons Learned」(教訓の文書化)では、行き当たりばつりに計画から離れてしまったことへの反省や、コミュニケーション不足で顧客要求を勘違いしたミスなどに、つき各チームから発表され、プロジェクトマネジメントの大切さを再確認することができた。



作品に荷重をかけ規格を満たしているかを検査

TOPIC 5 Rashmi Jain准教授による集中講義開催

2011年12月8日からの2日間、シンガポール国立大学のRashmi Jain准教授を招き、コア科目「システムの評価と検証」に関連する集中講義として「Cases and Applications of Verification and Validation」を開講した。

Jain准教授は、システムを構築する際にどのような検証や試験が必要なのかという事を社会人学生には納得できるように、新卒学生には分かり易いように説明された。この講義は1年前に開講された「System Architecture and System Integration」に続くもので、2年前に開講された講義と併せて、システムズエンジニアリングのV字モデルの全体を網羅できる内容となった。検証項目数とコストの関係、検証や



Rashmi Jain 准教授による講義の様子

試験にも第三者機関による管理が必要なこと等が解説され、検証と試験をしっかりと行うこ

とは安全なシステムを実現することにも繋がるという事を学生は学んだ。

TOPIC 6 留学報告会 開催報告



岩澤ありあ君の留学報告の様子

米国・Purdue大学、オランダ・Delft工科大学に交換留学したSDM学生による留学成果報告会が2011年12月13日(火)に開催された。

発表を行ったのは修士課程2年の加賀美悠子君、岩澤ありあ君、森本修介君の3名である。

加賀美君はDelft工科大学に3か月間滞在し、Corporate Finance等の講義を履修してビジネスの専門知識を深めた。英語による最終筆記試験は3時間にも及び非常に大変だったようである。岩澤君、森本君はPurdue大学航空宇宙学部で客員研究員として滞在し、それぞれWilliam Crossley教授、James Garrison教授の下で研究活動を行った。さらに、森本君はPurdue大学バドミントン部の選手としてシカゴオープンで活躍し、また、岩澤君もPurdue大学内の飛行場で航空機の操縦に挑戦したり、現地の小学校を訪問して授業するなどして充実

した3か月間を過ごした。3名とも“お金には変えられない貴重な経験ができた”とのことであり、改めて交換留学の価値を実感する報告会であった。



前列左より、岩澤ありあ君、加賀美悠子君、森本修介君、湊宣明特任准教授

TOPIC 7 日本科学未来館で科学教育ドームアニメの上映



日本科学未来館の近清武(本大学SDM研究所研究員)が中心となって企画制作されたドーム用アニメーション番組「ちぎゅうをみつめて」が、2011年12月7日から日本科学未来館のプラネタリウムで上映されている。このプロジェクトの映像効果監修をビジュアル・シミュレーションラボの小木哲朗教授が担当した。本番組はドーム環境の中での空間的な映像表現技術を利用して、今後は生成される没入感の高い空間映像の効果を学習用途に利用す

る応用研究へとつなげていく。番組の内容は、地球における炭素循環をテーマに取り上げ、地球にやってきた宇宙人の行動を通して、人間を含む動物、植物、空、海等の地球全体の生命活動を一つのシステムとして考えさせるファミリー向けの科学アニメーション番組となっている。今後は幾つかのプラネタリウム施設で順次上映されていく予定である。

▶ <http://www.miraikan.jst.go.jp/dometheater/chikyuwomitsumete.html>

TOPIC 8 ビジュアルメディアEXPO等で「デジタル3D浮世絵」が展示

ビジュアル・シミュレーションラボ(小木研究室)の池田絵里香君(修士課程1年)、陸瀬君(修士課程1年)、立山義祐特任助教、小木哲朗教授が中心に行っている「デジタル3D浮世絵」の研究結果が、日本科学未来館で開催されたデジタルコンテンツEXPO(2011年10月20-22日)、パシフィコ横浜で開催されたビジュアルメディアEXPO(2011年12月7-9日)において、招待展示として展示された。これは、浮世絵の

中で使われている遠近法に関する分析とそれを3次元表現するためのVR技術の研究結果で、現在のデジタル技術を使って江戸時代の浮世絵を3D表現したデジタルメディア作品でもある。将来的には、若者の関心を引き付けることで、博物館や美術館の集客力の向上や活性化に結びつける技術として期待されている。両展示会では合計約40,000人の来場者が訪れ、多くの方々にデモ展示を体験していただいた。



小木研究室の展示ブース

▶ http://dcexpo.jp/program/asiagraph/tenji_asiagraph.php

▶ <http://www.adcom-media.co.jp/vme/innovation/>

TOPIC 9 イベント報告:2011.12.11 福島復興イベント「ふくしま未来ミーティング」開催



前野委員長の講演の様子

2011年12月11日(日)に修士課程1年の学生である菅家元志君が代表をつとめる福島復興支援団体「Link with ふくしま」主催の『ふくしま未来ミーティング』が福島県内で開催された。本イベントにはSDM研究所が協力しており、教員としては前野隆司研究科委員長、保井俊之特任教授、神武直彦准教授が参加した。午前中



ワークショップの様子

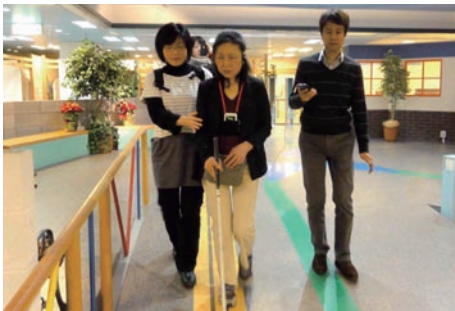
には「震災を経た福島の過去・現在・未来」という大テーマの下、講演会が開催された。福島大学つくしまふくしま未来支援センターや福島経済研究所からのご講演に加え、本学からは前野隆司研究科委員長が「全体統合視点の必要性とフューチャーセンターの可能性ー社会課題・市民課題解決のためのフューチャーセンターのデ



ワークショップの様子

ザインー」というテーマで講演を行った。午後からは「雇用」、「産業」、「復興特区」といったテーマで参加者全員でのデザイン思考に基づく協働ワークショップを実施し、この設計と運営をSDMの教員、研究員、学生が担当した。参加者が100名以上集まり、大盛況であった。また、アンケートの結果、参加者の高い満足度を確認した。

TOPIC 10 視覚障がい者向けの音声ナビゲーションシステム



視覚障がい者ナビ実験写真

春山真一郎教授のグループは、2011年12月15日に、大阪南港の複合型大型モールATCにおいて、パナソニック株式会社エコソリューションズ社(旧 パナソニック電工株式会社)の可視光通信技術を活用し、視覚障がいを持つ

方々に「視覚障がい者向けの音声案内サービス」を体験してもらう実験を行った。

春山教授は2011年より財団法人大阪市都市型産業振興センターのロボットラボラトリーが主催している実証実験支援事業に参加しており、今回の実験内容が <http://robo-labo.jp/modules/d3blog3> に紹介されている。

このシステムは、LED照明から送信される屋内位置情報をスマートフォンで受け取り、視覚障がい者の位置と姿勢をもとに、音声で案内をするというものである。実験には、弱視の方、全盲の方4名に参加していただき、方向指示の音声案内がその対象物の方向からヘッドホンで聞こえて分かりやすい等のコメントをいただき、大変好評であった。

この実験は2012年2月14日から2月19日まで

ATC11階のエイジレスセンターで開催される予定の公開実用化実験を前に行われたものであり、興味のある方は、2月の公開実用化実験にご参加ください。



TOPIC 11 高野教授が出席した座談会の記事がエンジニアリング協会の広報誌に掲載



一般財団法人エンジニアリング協会が発行する広報誌「Engineering」に、高野研一教授が出席した座談会「不確かな時代」のエンジニアリング産業に対する期待」の記事が掲載された。

- 媒体名称: Engineering
- 発行時期: 2011年10月
- 発行: 一般財団法人エンジニアリング協会
- 掲載場所: 「Engineering」2011年10月号 No.128 4～11ページ

こちら(リンク先: <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2011/12/01-123248.html>) から記事全文をご覧ください(一般財団法人エンジニアリング協会のサイトに移動します)。

お知らせ 受賞報告



2011年12月24日、前野隆司教授の「ヒトの触覚受容機構および触覚センサ・触覚ディスプレイに関する研究」が、計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術業績賞に選ばれました。

お知らせ 今月のラボ紹介は、お休みします。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所
 〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
 Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp